

史跡人吉城跡保存整備事業

人吉城跡は、昭和36年9月2日、国の指定を受けた史跡です。史跡の管理団体となった人吉市は、公有化や保存修理、歴史的建造物の櫓や長塀の復元、樹種転換など、さまざまな整備に努めてきました。

平成15年から人吉城歴史館の建設など西外曲輪を中心とした国・県補助金事業「史跡等総合整備活用推進事業」に着手し、人吉城歴史館の東側を集い、学び、くつろぐための「ふるさと歴史の広場」として整備し、平成18年には(財)日本城郭協会によって「日本100名城」に選定されました。

史跡人吉城跡が、ふるさと文化の継承と創造の場として大いに活用されることを願っております。



人吉城歴史館

当館は史跡人吉城跡を総合的に解説するためのガイダンス施設です。館内は展示棟、管理棟、地下室遺構覆屋からなり、展示棟には、人吉藩全体の絵図や人吉城の模型などがあり、相良氏や人吉城の歴史をビデオで紹介しています。

開館時間 午前9:00 から 午後5:00
(入館時間は4:30まで)

休館日 毎月第2月曜日
(当日が祝日の場合はその翌日)
年末・年始
(12月29日～1月3日まで)

区 分	個 人	団体(20人以上)
一般	200円	1人につき150円
高校生以下	無 料	



■お問い合わせ■

〒868-0051 熊本県人吉市麓町18番地4
TEL/0966-22-2324 FAX/0966-22-2134
E-mail_bunkashinkou@city.hitoyoshi.lg.jp
E-mail:rekishiisan@city.hitoyoshi.lg.jp

日本百名城 人吉城



Hitoyoshi Castle
GUIDE BOOK

国指定史跡 人吉城跡のご案内

人吉城の見取り図



人吉城散策コースのご案内

Aコース

(約40分) + 人吉城歴史館(約20分)

A → 復元長堀 → はね出し石垣 → 間米蔵跡 → 水ノ手門跡 → 堀合門 → 大村米蔵跡・欠米蔵跡 → 御下門跡 → 三の丸 → 中御門跡 → 本丸 → 二の丸 → 三の丸 → 相良神社 → 御館跡 → 御館御門橋 → 馬責馬場跡 → 後口馬場 → 大井戸遺構 → 【人吉城歴史館】 → **A**

Bコース

(約60分) + 人吉城歴史館(約40分)

B → 多門櫓 → 長堀 → 角櫓 → 買物所跡 → 渋谷家跡 → 後口馬場 → 【人吉城歴史館】 → 大井戸遺構 → 馬責馬場跡 → 復元長堀 → はね出し石垣 → 間米蔵跡 → 水ノ手門跡 → 堀合門 → 大村米蔵跡・欠米蔵跡 → 御下門跡 → 三の丸 → 中御門跡 → 本丸 → 二の丸 → 三の丸 → 相良神社 → 御館跡 → 御館御門橋 → 馬責馬場跡 → **B**

人吉城の歴史

人吉城は、鎌倉時代のはじめ、源頼朝の命を受け、人吉庄の地頭として着任した遠江国相良庄(現在の静岡県牧ノ原市相良)を出身とする相良長頼により修築されたと伝えられています。ただし山城としての本格的な築城は、文明2(1470)年頃、12代当主相良為統の時です。

豊臣秀吉の九州統一後の天正17(1589)年、20代当主相良長母が豊後から石工を招き人吉城を石垣づくりの城として改修しました。慶長6(1601)年には本丸・二ノ丸・堀・櫓・御門まで完成し、慶長12(1607)年から球磨川沿いの石垣を築き始め外曲輪が造られました。寛永16(1639)年に石垣工事は中止されますが、この時、近世人吉城がほとんど完成しました。

人吉城は2度の大火があり、特に、文久2(1862)年の寅助火事では城内の建物がほとんど焼失しました。翌年、御館北側の石垣が「はね出し」という工法で防火のために造られました。この工法は、函館五稜郭、江戸湾台場など日本の城で数例みられる西洋式の石垣です。

明治4(1871)年の廃藩置県の後、城内の建物は立木とともに払い下げられ、石垣だけが残っていました。

THE HISTORIC SITE OF HITOYOSHI CASTLE

The legend goes that Hitoyoshi Castle was repaired by Sagara Nagayori, who was from Totoumi county (now Sagara, Makinohara City, Shizuoka Prefecture).

In early Kamakura period (1192~1333), he arrived at his post being ordered as the lord of the manor in Hitoyoshi district by Minamoto no Yoritomo.

However, this Castle seems to have been built by the Twelfth Lord Sagara Tametsugu around Bunmei 2 (1470).

After Toyotomi Hideyoshi reigned over Kyushyu, in Tensho 17 (1589) the Twentieth Lord Sagara Nagatsune invited a stonemason in Bungo district and the lord made him reconstruct the Castle with the stone rampart wall.

In Keicho 6 (1601), the Lord Nagatsune completed the Castle having Hon-maru (the main castle enclosure of a castle), Nino-maru (the Secondary enclosure), Hori (a moat) and Yagura (a turret), Mon (a gate).

In Keicho 12 (1607), the Lord Nagatsune ordered the mason to build the stone-rampart wall along the two rivers of the Y-letter - the Kuma and the Mune - and the west outer-border parts of the Castle.

In Kan'ei 16 (1639) The Lord Nagatsune stopped the construction of the stone rampart wall. By this time, it can be considered Hitoyoshi Castle was almost been completed in the style of the early modern times.

The castle was destroyed in big fires twice, especially in Bunkyo 2 (1862), almost all the structures were burnt down Torasuke's fire.

After this fire, the stone rampart wall in the north of the Load Palace was built by the method of construction of "Hanedashi". This wall has the over-hanging rampart to prevent the castle from a fire.

This method was used in building a castle in Japan, such as Hakodate Goryokaku in Hokkaido and Daiba in Tokyo Bay. In other words, it is said this wall was built by using the European style.

After the abolition of feudal domains and establishment prefecture in Meiji 4 (1871), the structures and trees here were disposed of and only the stone rampart wall still is remained.

Thank you.

相良氏とは

今から約800年前、相良氏初代の長頼は、鎌倉幕府の源頼朝の命を受け、建久9(1198)年、遠江国相良庄(静岡県牧ノ原市)からこの人吉庄にやってきて、地頭になった。室町時代相良氏は、薩摩、日向に兵をさしむけて領地を拡大。やがて、第11代長頼が上相良氏を滅ぼし球磨郡内を統一し、第12代為統が八代の名和氏のお家騒動に乗じて八代と豊福を手に入れるなど、戦国大名としての階段を登っていった。その後、第16代義滋は芦北を制圧し、三郡支配(球磨・八代・芦北)をおこなうが、天正9(1581)年の「水俣合戦」で島津義久に敗れ、芦北・八代を失うことに。天正15(1587)年、豊臣秀吉の九州征伐に敗れ、秀吉に降伏し、球磨郡のみの支配を許された。この時の当主は、第20代長母である。

長母は、この頃から中世の人吉城を近世の城としてリフォームを開始し、自然の地形を防御に活かした山城から、石垣造りの城へと修築した。現在の球磨川・陶川沿いの石垣がその時のものである。長母は、豊臣秀吉の朝鮮出兵に出陣したが「関ヶ原の戦い」(1600年)では、重臣・相良清兵衛の機転により、豊臣方から一転し徳川方についた。徳川家康は天下をおさめ、江戸幕府を設立。相良家も近世大名として明治4(1871)年の廃藩置県まで、この球磨郡の領主・知事をつとめた。

現存する江戸時代の絵図 明治時代の写真 発掘調査で確認された数々の遺構。 史実に基づき復元した 蘇える「歴史遺産」。

この城のここが凄い！ 五つの要点

その一

中世期から明治維新まで相良氏の居城
およそ700年という長い期間、この地を治めた相良氏の居城でした。

その二

45万㎡の広大な城郭
公式サッカーコート(68m×105m=7,140㎡)約63面が作れる広さです。

その三

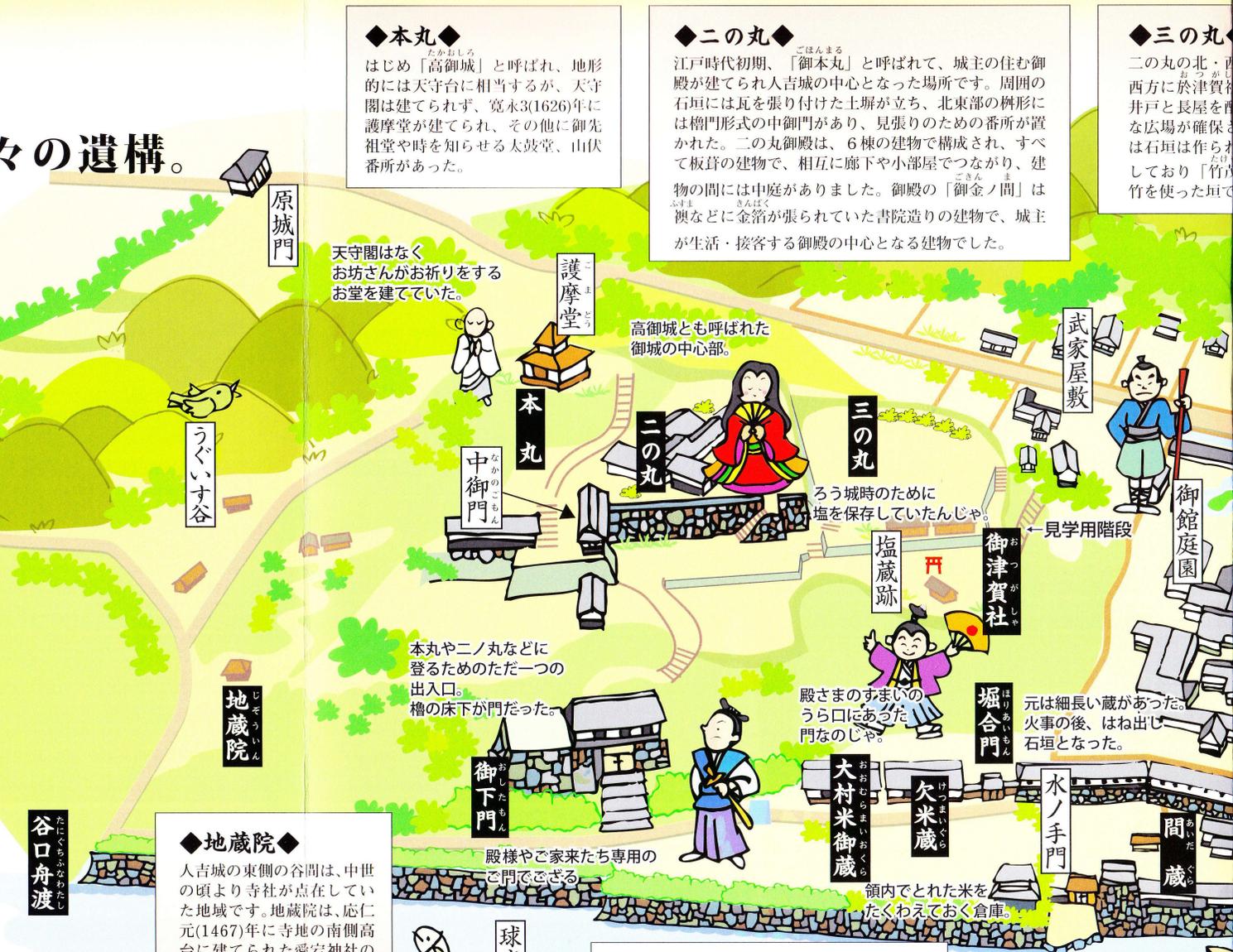
急流球磨川を外堀、水運に利用
天正17年～寛永16年までの51年、石垣工事が行われており、球磨川・胸川に面した石垣の7箇所に船着場も造られていました。その中でも最大なものは「水ノ手門」で、年貢米の出し入れに使用されていました。

その四

幕末に西洋式石垣の「はね出し石垣」を採用
文久2年寅助火事後、御館の防火のために行われた石垣工事で石垣上部に西洋式はね出しを設置する「はね出し石垣」が採用されました。「武者返し」とも呼ばれ、江戸湾台場、函館五稜郭などの西洋式城郭に採用される工法ですが、人吉城のような古典的城郭に採用されたのは唯一の例です。

その五

全国初の「井戸のある地下室」を二つ発見
平成9年度に相良(犬童)清兵衛屋敷で、平成13年度には、相良(犬童)内蔵助屋敷でも井戸のある地下室が発見されました。本丸護摩堂の湯殿と同様の行水施設と推定されています。



◆本丸◆

はじめ「高御城」と呼ばれ、地形的には天守台に相当するが、天守閣は建てられず、寛永3(1626)年に護摩堂が建てられ、その他に御先祖堂や時を知らせる太鼓堂、山伏番所があった。

◆二の丸◆

江戸時代初期、「御本丸」と呼ばれて、城主の住む御殿が建てられ人吉城の中心となった場所です。周囲の石垣には瓦を張り付けた土塀が立ち、北東部の櫓形には櫓門形式の中御門があり、見張りのための番所が置かれた。二の丸御殿は、6棟の建物で構成され、すべて板葺の建物で、相互に廊下や小部屋でつながり、建物の間には中庭がありました。御殿の「御金ノ間」は襖などに金箔が張られていた書院造りの建物で、城主が生活・接客する御殿の中心となる建物でした。

◆三の丸◆

二の丸の北・西方に於津賀社井戸と長屋を備えた広場が確保され、石垣は作られておらず、竹を使った垣

◆地蔵院◆

人吉城の東側の谷間は、中世の頃より寺社が点在していた地域です。地蔵院は、応仁元(1467)年に寺地の南側高台に建てられた愛宕神社の別当寺として創建された真言宗寺院です。

◆谷口舟渡◆

谷口舟渡は、主に城内と対岸の商人町・侍町との交通に利用された。藩は宝暦6(1756)年には谷口から上流に他領の舟が上るのを禁止しており、往來監視のため番所も置かれていた。

◆御下門◆

「下の御門」と呼ばれ、人吉城の中心である本丸・二の丸・三の丸への唯一の登城口に置かれた門です。



◆大村米御蔵・欠米蔵・間蔵◆

人吉藩では藩内12ヶ所に米蔵を置いた。このうち間(村)蔵と大村蔵は、それぞれ城内の水ノ手口と堀合門東方に1棟づつあった。

◆堀合門◆

城主の住む御館の北側入口に置かれた門です。文久2年の寅助火事でも焼け残り、明治4年の廃藩置県後の城内建物を取りこわす時、土手町に住む新宮家に移築された。



部に広がる曲輪です。
と2棟の「塩蔵」、
置するだけで、広大
れています。周囲に
自然の崖を城壁と
かり垣」と呼ばれる
防壁していました。

◆御津賀社◆
初代相良長頼の入国前の
人吉城主であった平氏の
代官矢瀬主馬祐をまつる
霊社です。

◆御館御門橋◆
(熊本県指定文化財)
多脚式の石橋で、明和3(1766)
年に山田村の石材を切り出し、
領内各村に割当して運搬させ建
設されました。



◆織月城の由来は「織月石」◆
(人吉市指定文化財)
正治元(1199)年正月三日に入吉城の修築を始めた時、
城の西南隅から三日月文様のある石が発見されことから、
別名「三日月(織月)城」と呼ばれるようになりました。
この石は、当初、本丸の祠に安置してありましたが、元
亀3(1572)年に第18代当主義陽
が谷口愛宕山延命院の僧順真に命じ、
愛宕神社前に新しく祠を建てて安
置させています。その後、文久2
(1862)年の寅助火事で祠と共に
焼けたため一時民家になりましたが、
当時、五日町の古物商木村初太郎
氏の尽力により相良神社に奉納さ
れ現在に至っています。



西外曲輪

球磨川とその支流の胸川に挟まれた場所を西外曲輪と
呼んでいる。川沿いの石垣には船着場があって、物資の
出入れに使われていた。中央に走る「後口馬場」は道幅
10mの大きなものだった。

江戸時代初期、馬場の北側は相良清兵衛と息子の内藏
助の屋敷があり、南側には上級家臣の屋敷が配置されて
いた。寛永17(1640)年の「御下の乱」で清兵衛と内
藏助の屋敷や周辺の屋敷が焼失した。絵図の清兵衛屋敷
の「二階建て持仏堂」、内藏助屋敷の「蔵」部分から、
発掘調査により全国に例のない井戸を持つ地下室遺構が
検出された。また、乱の後、この曲輪の北西隅の石垣上
に「角櫓」、胸川沿いの石垣上に「多門櫓・大手門櫓」
が建造された。

江戸時代中頃になると「人吉城大絵図」では、馬場北
側に買物所、普請小屋、御厩、大台所等の藩の施設が配
置され、馬場南側には、家老をつとめた渋谷三郎左衛門
などの上級家臣が居住していた。

「日本百名城」に認定

百名城は、一般公募で推薦された国内の城郭の中から、
財団法人日本城郭協会によって選出されました。

- 1) 優れた文化財・史跡であること
- 2) 著名な歴史の舞台であること
- 3) 時代・地域の代表であること

この3つの基準を満たし、史実に基づき正確に復元・修復
されているかなど、歴史や建築の専門家たちが審査し、
2006年4月6日(城の日)
に発表。函館五稜郭や
沖縄首里城などと並び、
県内では熊本城とこの
人吉城が名城としての
認定を受けました。



◆多門櫓◆ (復元面積199㎡)
大手門の北側石垣上
にある長櫓です。本
瓦葺き入母屋造り、
鍵形の平屋構造の建
物で、壁は上部が漆
喰大壁、下部が黒塗
の下見板張。外面の
14面の突き上げ窓は
防ぎよのためのもの
です。



◆水ノ手門西側長塀◆ (復元長63.5m)
瓦葺きの土塀で、
外面は上部を漆喰
壁、下部に腰瓦を
張り付けた「海鼠
(なまこ)壁」で
す。



◆角櫓◆ (復元面積149㎡)
胸川と球磨川の合流点、人吉城跡
の西北角に位置する櫓です。櫓は、
本瓦葺き入母屋造り平屋構造の建
物で、壁は上部が漆喰大壁、下部
が黒塗りの下見板張。外面の8面
の突き上げ窓は防壁のためのもの
です。



◆多門櫓北側長塀◆ (復元長151m)
瓦葺きの土塀で、外
面は上部を漆喰壁、
下部に腰瓦を張り付
けた「海鼠(なまこ)壁」
です。塀の2カ所に攻
撃用の「石落とし」が
設置されていました。

